

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	「鹿児島島の笛「天吹」の実地調査報告書
Title in another language	A fieldwork report about Kagoshima's Tenpuku Flute
Author(s)	淵上ラファエル広志 (FUCHIGAMI Rafael Hiroshi)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 11, p. 47-53
Date of issue	2022-03-29
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	https://tcm-minken.jp/publication/IE_B11202105.pdf

鹿児島県の笛「天吹」の現地調査報告書

A fieldwork report about Kagoshima's Tenpuku Flute

湧上ラファエル広志 FUCHIGAMI Rafael Hiroshi

本稿は、鹿児島県地方独自の竹笛「天吹」の現地調査に関する報告書である。2021年12月11日から13日にかけて、天吹における演奏・製作・歴史、この3点について鹿児島市、霧島市、姶良市で現地調査を行った。まず鹿児島市において、天吹同好会主催の第40周年記念会へ参加し、天吹を演奏した。翌日に、地元の伝承者と共に霧島市の竹藪にて竹の採取、そして天吹の製作を試みた。最後に、姶良市にて天吹の歴史に関わる場所を見学し、最古の天吹を測定及び撮影をした。

キーワード：天吹 Tenpuku、竹製縦笛 Bamboo vertical flute、
伝統音楽 Traditional music、鹿児島 Kagoshima、
天吹同好会 The Tenpuku Association

1. 現地調査の内容

本調査の主たる目的は、天吹における演奏、製作と歴史、この3点についての情報及び史料を収集することであった。調査の過程は以下のとおりである

日付	調査	場所
12/11 (土)	天吹同好会40周年記念会	鹿児島市中央公民館ホール
12/12 (日)	竹の採取、天吹の製作	霧島市(竹藪)、姶良市(白尾の実家)
12/13 (月)	最古の天吹への調査	姶良市(加治木町、藩生町)

12月は、天吹同好会創立40周年という節目と、竹の採取をする時期であるため、効率的に調査を実施することができた。

2. 天吹同好会第40周年記念会

天吹の由来は不明であるが、薩摩藩において、江戸時代以前から武士は自顕流を鍛錬したうえ、情操教育のために琵琶と天吹を稽古していた。明治になると、天吹は学舎に受け継がれ、当時の青年たちに愛好されたが、「明治30年ごろ、勉強の妨げになるとして禁止令が出されたというのをきっかけに一気に衰微し、伝承者は大田良一¹ただ一人となってしまいました」(白尾 2022: 5)。



写真1：第40周年記念のチラシ

4) 普化尺八、5) 多孔尺八。普化尺八²の場合、日本全国に普及したうえ、海外にも広まり、国際的な楽器となった。しかし、天吹は、日本全国に広まっていない、鹿児島でも一般人にあまり知られていないのである。このように、天吹に触れる機会を得ることは奇跡だと言っても過言ではない。

2008年ごろ、筆者は尺八の研究を始めたときから天吹という言葉を知った。そして、2016年に鹿児島地方の音楽について研究をしてきた、東京音楽大学の原田敬子准教授と共に鹿児島へのフィールドワークの機会があった。当時、薩摩琵琶・天吹奏者の上川路直光へインタビュー調査を実施した際、2本の天吹を頂いた。そのお陰で、鹿児島に縁が生まれ、5年後の2021年4月に天吹同好会へ入会した。それから、天吹同好会会長の白尾國英（白尾國利の息子）に天吹の吹奏・製作の指導を受けるようになり、天吹の世界に触れる機会が多くなった。

第40周年記念会では、薩摩藩の郷中教育の中で訓練していた自頭流、琵琶と天吹、この三つのデモンストレーションと演奏が行われた。記念会のプログラムは以下のようになった。

プログラム

司会：天吹同好会副会長の赤崎紳一

(1) 挨拶

- ・薩摩琵琶同好会会長、野太刀自頭流研修会会長：森山清隆
- ・天吹同好会会長：白尾國英

天吹の伝承を保持するため、1955年に「天吹柴笛振興会」が結成され、そこで白尾國利（1920-2006）は大田良一（1887-1959）から天吹伝承の7曲を受け継いだとされている。

1981年には、天吹の伝承を継続するために、白尾國利を中心にし、天吹同好会が発足され、1986年に『天吹』という本が発刊された。ここには、集大成として、論文や史料、また天吹製作法や吹奏法について多く書かれている。研究に対して大切な一冊であり、天吹の吹奏及び製作を学習したい人には欠かせない教則本でもある。天吹は1990年に鹿児島県の指定無形文化財となり、天吹同好会はその保持団体として認定された。このように天吹同好会は、天吹の伝承を維持するために非常に大切な団体となった。

天吹は尺八の一種として位置づけられている。尺八は、次のように5種類に分けられている。1) 雅楽尺八、2) 一節切尺八、3) 天吹、

- ・《イチヤナ》天吹演奏：赤崎紳一
- (2) 天吹説明
- ・天吹の歴史や構造など：白尾会長
 - ・《テンノシヤマ》、《タカネ》天吹演奏：吉田雅章
 - ・《アノヤマ》 柚木盛吾
- (3) 薩摩琵琶の演奏
- ・《城山》上川路直光
- (4) 自顕流のデモンストレーション
- (5) 天吹発表
- ・《テンノシヤマ》 亀割成子、新納恵子、福迫智子、宇都太賀
 - ・《イチヤナ》 湊上ラファエル広志、高尾直弘
 - ・《アノヤマ》 喜人章夫
 - ・《センペサン》 田澤一彦
 - ・《シラベ》 上川路直光
 - ・《ツツネ》 佐野雅雄
 - ・《タカネ》 白尾会長
 - ・《テンノシヤマ》、《イチヤナ》、《シラベ》 天吹同好会全員



写真2：琵琶の演奏
(天吹同好会提供)



写真3：自顕流のデモンストレーション
(天吹同好会提供)

記念会では、大田良一から伝えられた伝承の7曲はすべて演奏された。天吹の曲は、純粋器楽の《調べ》《高音》《筒音》、そして稚児歌由来の《イチヤナ》《彼の山》《仙平さん》《天王寺山》である。

筆者は天吹を演奏する前に、司会に以下のような短いインタビューをされた。

インタビューの内容

- ・出身はどこか。
- ・鹿児島でも知らない人の方が多い天吹の存在をどのようにして知ったのか。
- ・天吹を学ぼうとしたきっかけは何か。
- ・天吹同好会にはどのような経路で入会したのか。
- ・天吹の好きなのところは何か。

地元の伝承者に天吹を学習し研究する外国人がいないため、筆者の存在は珍しく思われたようである。記念会の終了後、自顕流の道場及び天吹の練習場としても使われている共研舎幼稚園にて同好会会員の茶会が行われた。



写真4：天吹同好会全員の演奏（天吹同好会提供）

翌日、天吹同好会代表者の白尾國英会長、藤原和朗、佐野雅雄と上川路直光の各氏と共に天吹の材料となる竹を探しに行った。

3. 天吹製作

12日の実地調査では、まず霧島市の竹藪にて、天吹製作に用いる布袋竹³を採取した。竹藪に入る前の準備には、作業着やメガネや軍手などのようなものが必要となる。そして、竹藪の中で天吹になるような竹を見つけるのは簡単ではないことがわかった。竹の直径は22mmまでが望ましいが、これ以上は太すぎるので天吹に相応しくない。そして、第一節と第二節（下から数える）の距離は約8cm、第二節と第三節は約10cmの距離を持つ竹を目指す。つまり天吹製作では、使用することができる材料の入手までの努力が大きい。



写真5：竹の採取（上川路直光提供）

材料を収集したら、次は土などを落とすために、水と普通の洗剤などで竹を洗う。その後に、竹の油を抜く「油抜き」という作業を行う。油抜きをするのに、ガスコンロやストーブなど、竹を温めるような器具を使う。油が抜ければ、竹は乾燥しきらなくても、すぐ天吹が作れる。

そして、順番に次の作業を行う。



写真6：天吹製作
(上川路直光提供)

- ・天吹の長さを決めて、菅尻と歌口を切る
- ・第二節と第三節（下から数える）の隔膜を抜く
- ・第一節の隔膜には直径3mm ぐらいの小さな穴を作る
- ・天吹の表面と裏面、そして指孔の位置を決める
- ・指孔を開ける
- ・歌口を形作る
- ・音程の調整をする

基本的に必要な工具はコンパス、鋸、ボロ（ギムネ）、四つ目ぎり、三つ目ぎり、ドリルドライバー、クリ小刀、サンドペーパーなどであるが、製作者によって自らが独特な道具を作る場合もある。

4. 古管天吹及び天吹の歴史に関わる調査

13日は、天吹の歴史に関わる場所を以下の通りに見学した。

- 1) 加治木町（大田良一の生家、白尾國利・國英の生家）
- 2) 精矛神社、青雲舎道場。精矛神社は島津義弘（1535–1619）を祀る神社。「青雲舎道場」は野太刀自顕流や天吹の指導などを通じて地元の青少年育成に尽力している。
- 3) 古管天吹、谷口重好氏所蔵の自宅前
- 4) 古管天吹、別府慶子氏所蔵 別府喜次郎氏作の自宅前
- 5) 白尾國利の墓
- 6) 白尾國英の自宅

白尾國英の所蔵には古管の天吹が3本ある。その中に、発見した天吹の中で最古のものになる「国分荒田家旧蔵」楽器の全長や指孔の距離などを測定し、試奏もした。しかも、白尾國利に書かれた記事と研究ノートのような史料を提供していただいた。



写真7：国分荒田家旧蔵の天吹

5. 今後の課題

本調査では、天吹同好会会員の初心者から熟練者までの演奏を見学することができた。しかも、竹の選び方から製作法まで、白尾國英、佐野雅雄、上川路直光、そして、伝承者の中で天吹製作に最も詳しい藤原和朗から天吹の作り方の指導を受けることができた。これは、非常に貴重な機会であった。地元の人々との交流、また鹿児島島の空気を感じることも、天吹の研究には欠かせない要素である。



写真8：左から白尾会長、筆者

先行研究には、田辺尚雄（1947）、月溪恒子（1986）、西山秀利（1986）、久保けんお（1960）、白尾國利（1986）、上野堅実（2002）らによる、音楽学と音響学専門の文献がある。しかし現在まで、天吹同好会における伝承・音楽活動や、音楽教育の立場からの研究がない。要するに、同好会の創立者白尾國利が逝去した後に天吹の伝承を受け継いだ人々についての研究がない。この点で、今回の実地調査は今後の天吹の研究の一步となる。

注：

- 1 大田良一（1887-1959）もしくは太田良一。琵琶奏者の号は「忠正」。
- 2 7節5孔、真竹で作られ、日本全国また海外にも普及されている尺八。
- 3 学名：*Phyllostachys aurea*. 鹿児島ではコサンダケと呼ぶ。

参考文献：

Fuchigami, Rafael H.

2021 The Mysterious Tenpuku Flute: Cultural Heritage of Kagoshima. Bamboo. (European Shakuhachi Society). Autumn / Winter 2021, 20-25.

久保，けんお．

1960 南日本民謡曲集．（東京：音楽之友社）．

西山，秀利．

1986 天吹の音響学的研究．天吹．p.41.

白尾，國利．

1986 天吹の伝承．天吹．p.173.

白尾，國英．

2021 会長挨拶．天吹同好会第40周年記念誌．（鹿児島：天吹同好会）．

田辺，尚雄．

1947 笛その芸術と科学．（東京：わんや書店）．

天吹同好会（編）．

1986 天吹．（鹿児島：天吹同好会事務局）．

月溪，恒子．

1986 天吹の音楽学的研究．天吹．1-42.

上野，堅實．

1993 尺八の歴史．（東京：出版芸術社）．

This report describes my fieldwork about the typical bamboo flute of the Kagoshima region, called Tenpuku. During the fieldwork conducted from December 11th to 13th, 2020 in the cities of Kagoshima, Kirishima and Aira, the author collected information about the Tenpuku's technical aspects, its history and manufacturing process. In Kagoshima City, the author joined the 40th Anniversary of the Tenpuku Association and as a member of the group the author also performed a traditional piece. On the next day, the author went into a bamboo forest with some representatives of Tenpuku traditions to study the process of the instrument making. Finally, the author visited some historical places related to it, being able to measure and analyze the oldest Tenpuku discovered to date.

（本学付属民族音楽研究所研究員、尺八研究）

